

## 責任投資における 3つのアプローチ

責任投資活動の中心的な考え方は、企業に対して友好的かつ建設的な姿勢で、ESG課題への対応状況やその背景にある戦略・哲学を含めて理解することです。その理解を基に、エンゲージメント、議決権行使、ESGインテグレーションを通じて、企業価値の向上に貢献することを目指しています。

P15



## Engagement

エンゲージメント

当社のエンゲージメントの定義は、「会社に対する深い理解を基礎にしつつ、企業が望ましい経営を行い、企業価値向上と持続的成長を実現できるような働きかけること」です。保有株の中から定期的なスクリーニングにより対象企業を選定し、ESGの観点や重要テーマなどを踏まえてエンゲージメントを行います。

### エンゲージメント活動実績

2018年のエンゲージメント件数は延べ345件(250社)となり、ESGを中心に656テーマについて対話を行いました。また、2017年より導入した3年を区切りとするマイルストーン管理により、効率的な進捗管理を行い、次回以降のエンゲージメント予定の策定に繋がっています。マイルストーンに4つのステージ(①課題の伝達、②認識の共有、③対応策の策定、④対応策の実施)を設定しています。成果測定では、課題に対する改善プロセスが継続しているかを基に判断します。

P21



## Proxy Voting

議決権行使

国内外の投資先企業が望ましい経営を実践し、企業価値の向上と持続的成長を実現していけるように、議決権行使ガイドラインを策定しています。それに則って、投資先企業に対して議決権を適切に行使しています。注目点は、取締役選任、役員報酬、監査役選任といったコーポレートガバナンスです。

### 議決権行使の結果

議案判断は、議決権行使ガイドラインに則って判断可能な議案については責任投資委員会事務局（責任投資調査部）が賛否の決定を行います。その他の定性判断が必要な議案については責任投資委員会を開催し、審議・決定します。2018年における日本企業に対する議決権行使は、議案ベースで約2万2,700議案への賛否を行い、会社提案への賛成比率は92%、反対比率は8%となりました。外国企業に対しては約1万200議案への賛否を行い、会社提案への賛成比率は86%、反対比率は14%となりました。

P27



## ESG Integration

ESGインテグレーション

投資先企業のESG評価をグローバルで実施しています。気候変動や人権などのグローバルな共通テーマに加え、個別産業・企業ごとのESG課題を抽出し、複数の外部評価情報を活用しながら、当社独自のESGレーティングを付与し、運用に活用できるようにしています。

### インテグレーションの動向

ESGインテグレーションは、共通のESG評価をベースに戦略ごとに異なる手段で運用プロセスに組み込まれています。当社のESG評価では、リスク項目だけではなく、将来の収益を創出するような機会にも注目しています。評価は、項目ごとに順位付けや業種内比較も可能であり、銘柄選択に有益な内容です。また、中長期的な投資リターンを生み出すために、5年程度の時間軸を意識した企業のESGへの取り組みなどを評価し、運用プロセスに取り入れることで運用力の向上に繋げています。